

「会意」は両方とも意味を持っているのですが、「形声」というのは、ひとつの文は必ずその言葉の発音を表すものを持っている場合は「会意」といわないで「形声」と呼びます。「形」は意味を表し、「声」は発音の意味です。

中国の二つの大河、黄河・揚子江のことですが、いずれも“さんずい”がついています。今は黄河というように、黄色という字が河の上につきますが、昔の中国には黄河という名称はありません。いつも黄色く濁っているので、後に「黄」という字がついて黄河と呼ばれるようになりましたが、古くは「河(カ)」としか言いませんでした。“カ”という発音を表す「可」と、「川」の真味の“さんずい”とで、「河」という名前の川であるとしました。

揚子江というのも現在の名前であって、昔は「江(コウ)」としか言いません。あるいは中国一長い川であるから“長い”という形容詞をつけて「長江」と呼ばれることもありました。つまり「江」自体が固有名詞なのです。したがって“コウ”と発音する「工」と“さんずい”とで、「江」がつけられました。そうすると、「江という川の名前だ」ということが初めて見る人にもわかります。

柏、梅、椿は、木の名前です。木の名前はすべて右の“つくり”がその発音を表しています。白という字は中国音では“ハク”と発音するからこ

れは「柏(ハク)」という名前の木です。日本では「柏(カシワ)」と読みます。

梅は呉音では“マイ”と発音します。毎朝や毎日の「毎(マイ)」です。呉音ではさらに“メイ”と発音することがあります。実は「梅(ウメ)」というのは呉音の“メイ”から来たのです。日本語には「梅」を表す言葉がなかったと考えられます。したがって「梅」の木を見ても、これは何だということが言えなかったのです。おそらく「梅」の木は中国から渡来したものだと思われま

日本人が初めて梅を見て「これは何という木ですか？」と尋ねたときに、中国の人は「それは『メイ』です」と答えたのでしょ

う。日本語というのは、力強く言うときには「マミムメモ」の上には、“ウ”がつきます。

「『メイ』そうですか『ウメ』ですか」ということで、“ウメ”と呼ぶようになりました。

他では「馬(ウマ)」がそうです。これは漢音では“バ”、呉音では“マ”と発音します。

「これは何ですか？ こんな動物は日本では見たことありません」

「それは『マ』です」
「そうですか。『ウマ』ですか」という具合で、“ウマ”になったわけです。